

間新会長のご挨拶

平成26年6月10日開催の日本産業・医療ガス協会定時総会および理事会におきまして、会員の皆様、理事の皆様のご承認を得て、会長に就任いたしました間 邦司（はざまくにし）です。

2期4年にわたり会長を務められ、高い見識から率先して陣頭指揮を執っていただいた豊田前会長の後任として、この度日本産業・医療ガス協会会長の重責を担うことになりました。職責の重みを感じながらも、この業界で経験を積み、育てられた者として業界全体への恩返しのため職務を全うしたいと考えています。



間新会長

我国の経済情勢は、国内市場の縮小や生産拠点の海外シフトが進む中、アベノミクスによる円安、株高を背景に、僅かずつながらも改善しつつあり、昨年の秋以降はガス販売量も前年を上回ってきています。しかし、私たちの産業・医療ガス業界では、一昨年より続く電力各社の料金値上げや、輸送コストに大きなウェイトを占めている燃料軽油価格の上昇など、エネルギーコストが高止まりしたままとなっていることが、製品原価において非常に重い負担となっています。業界の置かれている状況は、まだまだ先行き予断を許しません。加えて消費税増税分の販売価格への転嫁も現状では概ね順調に進んでいるようですが、消費の冷え込み懸念もあり、引続き注視していく必要があると考えております。

このような厳しい状況におきましても、産業・医療ガス事業を営む会員の皆様が、事故撲滅を目指して万全の保安体制を構築しながら、ガスの安定供給の継続に努力されていることは言うまでもありません。このような会員の皆様の活動を積極的に支え、ひいては日本経済の発展と国民生活の向上に大いに貢献していくことが、日本産業・医療ガス協会の使命であると考えております。

会長就任に際しまして、これからも様々な分野での取組み活動を世間に広くアピールすることによって産業・医療ガス業界の地位向上につなげ、その活動においてはコンプライアンスの徹底を図ることを協会運営の2本の柱として据え、安心安全の確立に向け、産業ガス部門、医療ガス部門それぞれの広範な課題解決に取り組んで参ります。皆様におかれましては、是非ともJIMGAの活動に引続き絶大なご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(会長・間 邦司)

仲山一郎氏「2014年 IOMA国際統合化賞」受賞について

5月22日にスロベニアのリュブリャナで今年第1回目のIOMAのグローバル委員会会議が開催されました。当会議は、世界の産業ガス4協会（AIGA、CGA、EIGAおよびJIMGA）がメンバーであるIHC（International Harmonization Council）による基準の統合化活動の諮問機関の役割を担っています。また基準統合化活動支援の一環として統合化活動に貢献した功労者を、IHCの各メンバー協会から推薦された候補者の中から毎年1名選出し「IOMA International Harmonization Award（国際統合化功労賞）」として表彰しています。今回の会議で2014年の受賞者は仲山一郎氏（大陽日酸(株)・現JIMGA産業ガス部門事務局）に決定しました。

今回の受賞決定は、仲山氏の国際統合化活動における長年にわたる貢献が国際的に高く評価



夕食会での出席者の面々

された結果であると同時に、日本の産業ガス業界の存在感が示されたものと思われます。日本人としての受賞は2012年に鷲頭隆氏（エア・ウォーター(株)・JIGA元専務理事）が受賞して以来2度目の快挙となります。

今年10月27日に京都で開催されるIOMA総会のPresident Banquet（会長晩餐会）にて受賞式が行われる予定です。

（産業ガス部門・石原智子）

ベルリン(DIN)でのISO会議

2014年6月、ベルリンのDIN(ドイツ工業規格協会)で開催されたISO TC220会議に出席しました。TC220は超低温容器の規格を担当します。TC220に関してJIMGAは昨年よりO(Observer)メンバーからP(Participant)メンバーになりました。規格立案段階から意見を述べる事ができ、また、各段階での投票権を獲得しました。JIMGA内では技術・保安部会の超低温貯槽WGがTC220を担当しています。WG会議で規格案を議論し、国際会議に意見を提出します。



会議の様子

今回の会議では、主にISO24490(低温用ポンプに関する規格)に関して事前に日本が12件のコメント・修正案を提出し参加国の間で議論された結果、その多くが採用されました。会議中、ストレナ材質に関する日本のコメント内容が正確に伝わらなかったため、夕食時に各国の参加者との雑談のなかで、日本では年に1度プラントを停止して摩耗部品の交換をしているなどの実情を伝えることで、他国の委員から理解を得ることができました。



DINのオフィスビル外観

国際会議では考え方や法律の異なる立場同士での議論になるため、形式的なやり取りだけではなく、お互いの実情を話すことも議論を深めるうえで重要な手段になります。

次回会議は中国の北京で2015年6月に開催される予定です。
（技術・保安部会事務局・徳富 栄一郎）

全都道府県と災害時の医療ガス供給協定締結

大規模災害が発生した際には医療施設の役割が非常に重要です。被災した多くの負傷者が医療施設に搬送され医療用酸素の必要性は平常時に増して高まります。一方、医療施設も被災し施設内の医療用酸素設備が稼働できない事態も想定されます。

JIMGA医療ガス部門は以前から、重点課題の一つに「災害時の医療ガス供給協定」の締結促進を掲げて取り組んでおり、平成23年3月11日の東日本大震災発災時点では19都府県と締結していました。東日本大震災の際、災害時協定を締結済みの県においては協定にのっとり、全国のJIMGA会員から緊急に供給を受けた医療ガスを被災地の医療施設に供給することができ、この協定の有効性を確認することができました。

その後、都道府県の担当官のご理解が深まり協定締結に向けて協議を重ねた結果、全国各地の都道府県と協定締結が進み、平成26年度早々には福島県、鹿児島県、山梨県の3県と相次いで協定書を締結することができました。これで長年目標としていた全都道府県との協定締結を達成することとなりましたが、これはひとえに締結に向けてご努力いただいた地域本部長、都道府県支部長、会員各位のご支援ご努力の賜であり感謝申し上げます。

これで有事の際には、すべての都道府県においてその枠を超え、有機的かつ迅速に医療ガスを供給できる体制作りのスタートラインに立ったこととなります。これからは、協定を活かすものにするために都道府県と協議の上実施細目・マニュアルを策定し、図上あるいは実地訓練を行い、訓練を通して明らかになった運用上の問題点を見直し、都道府県担当官と意識の共有を図る活動を展開して行きます。この活動の繰り返しがある際に機動力を発揮できる体制作りにつながりますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

この協定の内容は都道府県ごとに少し異なりますが、概ね次のような内容になっています。

- 締結者は都道府県知事とJIMGAの地域本部長または支部長
- 都道府県は、災害時に医療ガス等の確保が必要であると認めるとき、JIMGAに対してJIMGA会員が保有する医療ガス等を供給するよう要請する。
- JIMGAの会員が供給する医療ガス等には、医療ガスのほか医療ガス使用の際に必要な資器材などが含まれる。
- 都道府県は、医療ガス等の引き取り場所や配送方法を指定し、品目・数量を確認して引き取る。
- 都道府県は、協定に基づいた医療ガスの供給に要した実費を負担し、その価格は災害発生直前の適正な価格とする。
- 都道府県はJIMGAの会員に対し、医療ガスを使用する施設の安全性の確認への協力を要請できる。

全都道府県との締結状況

地域本部	都道府県	締結年月日	地域本部	都道府県	締結年月日
北海道	北海道	平成24年9月7日	近畿	大阪府	平成21年9月1日
東北	青森県	平成25年3月27日		京都府	平成21年12月28日
	秋田県	平成25年10月9日		奈良県	平成21年10月1日
	岩手県	平成11年7月29日		和歌山県	平成21年12月24日
	山形県	平成19年2月20日		滋賀県	平成21年12月10日
	宮城県	平成13年1月17日		兵庫県	平成21年10月9日
	仙台市消防局	平成10年1月16日		神戸市	平成19年1月
	福島県	平成26年5月27日		中国	鳥取県
関東	東京都	平成19年10月1日	島根県		平成25年3月25日
	東京消防庁	平成8年3月	岡山県		平成23年12月27日
	神奈川県	平成19年10月1日	広島県		平成13年5月15日
	千葉県	平成21年9月2日	山口県		平成25年2月1日
	埼玉県	平成24年11月15日	四国	徳島県	平成24年3月22日
	茨城県	平成24年2月21日		香川県	平成24年3月27日
	群馬県	平成25年3月21日		愛媛県	平成24年3月26日
	栃木県	平成15年3月1日		高知県	平成24年3月14日
	新潟県	平成24年12月10日		九州	福岡県
	長野県	平成24年3月23日	佐賀県		平成24年4月25日
山梨県	平成26年6月5日	長崎県	平成26年3月31日		
東海	愛知県	平成21年6月8日	熊本県		平成9年9月11日
	岐阜県	平成22年1月20日	大分県		平成24年11月16日
	三重県	平成21年6月8日	宮崎県		平成25年11月1日
	静岡県	平成20年6月10日	鹿児島県		平成26年5月30日
北陸	福井県	平成25年3月27日	沖縄県		平成26年3月7日
	石川県	平成25年5月10日			
	富山県	平成25年3月1日			

なお、東日本大震災の被災地への医療ガス等の供給の活動に対し、平成24年2月23日に宮城県知事からJIMGA本部医療ガス部門、東北地域本部と宮城県支部に感謝状が授与され、また、平成25年3月11日には厚生労働大臣からJIMGA本部医療ガス部門、東北地域本部と近畿地域本部兵庫県支部に感謝状が授与されました。兵庫県支部は平成7年1月17日の阪神・淡路大震災の際に受けたご恩へのお返しとして医療用酸素を被災地に搬送するなどの支援を行いました。



宮城県知事の感謝状

(医療ガス部門・鈴木 正晴)

会員紹介 ー岩手工業株式会社ー

岩手工業株式会社は昭和21年4月、岩手県大船渡市内にて創業しました。現在、一般産業ガス（アセチレン、酸素、窒素、炭酸、空気）、医療用酸素、液化石油ガスの製造、および容器再検査（一般ガス、LPG）を行っており、三陸地域の総合ガスセンターとなっています。

本社工場は、三陸鉄道の南リアス線に隣接したのどかな工業地域にあります。当地にお越しの際は、ぜひ三陸鉄道にご乗車いただき、弊社へもお立ち寄りください。



岩手工業(株)外観

3.11東日本大震災からの復興

3年前の東日本大震災では、3.5mの津波に襲われ、全ての製造設備が浸水、または流出する甚大な被害を受けました。地震発生時にはアセチレン容器が充てん管から外れるというアクシデントに見舞われましたが、緊急停止措置・バルブ閉止措置を施し、地震から15分後に避難を開始したことで津波による人的被害を逃れました。避難場所である県立病院は医療用酸素の納入先であり、避難直後から医療用酸素の供給手配にあたりました。

通信手段が不通の中、被災を逃れた車両で県内陸部の同業者のもとへ走り、供給協力をいただけることとなりました。それから毎日、片道2時間の峠道を往復して医療機関に酸素を供給しました。間もなく市内各所で復旧作業が始まったことで、ガスの需要が増加しました。自社製造設備が完全復旧するまでの1年間、多くの同業者から供給応援をいただきました。LPG容器再検査工場の設備が他に先駆けて復旧できたのは、休止していた設備を無償提供して下さった中部地方の同業者の皆様のご厚意のおかげです。



復旧した容器置場

この3年間にいただいたご支援は何年かかっても返しきれものではありませんが、被災地復興に貢献すること、被災体験を皆様にお伝えすることで、感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。

将来に向けた新たな取り組み

弊社を取り巻くビジネス環境は、東日本大震災後に一変しました。現在、三陸地域では護岸・市街地のかさ上げ等の公共事業や産業基盤の再生事業が進められています。その一方で、被災地を離れて暮らす選択をした人たちも少なくなく、一定のインフラ整備が完了するとされる3年後の街の賑わいはいかほどかという懸念もあります。



復旧した容器再検査工場

弊社は「ガス匠企業：産業・医療を支えるガスに、安全・安心・夢を添えてお届けします」の理念のもとに邁進して行きます。また地場企業として、地域の雇用を支える存在でありたいと考えています。地元の中高生の職場体験の受入れ、高圧ガスを使用した理科実験の提供等に積極的に取り組み、当地の未来を創る若者の成長に貢献して行きます。

(岩手工業株式会社 代表取締役・熊谷 孝嘉)

新事務局員の紹介



名前：永江 裕（ながえ ひろし・1954年4月 大阪府出身）

現住所：神奈川県川崎市幸区

略歴：1978年4月 日本酸素(株)入社
1984年9月 シンガポール駐在員事務所
1991年1月 海外部営業グループ
2007年4月 Ingasco Inc. 社長
2010年6月 執行役員中四国支社長
2013年4月 執行役員九州支社長
2014年6月 JIMGA専務理事

趣味：筋金入りの鉄道ファンです。九州勤務時代にNゲージの運転から乗り鉄に趣味を拡大させました。8年ぶりの自宅通勤となり、新しいプランを検討中です。

抱負：産業・医療ガス業界の地位向上と、協会活動におけるコンプライアンスの徹底を協会運営の2本柱とすると共に、協会会員間および協会組織内のコミュニケーションを第一とし、安全安心の確立に向けて誠心誠意、取組んで行きたいと思っております。



名前：保坂 昭一（ほさか しょういち・1961年7月 山梨県出身）

現住所：神奈川県横浜市鶴見区

略歴：1985年4月 日本酸素(株)入社
1994年12月 プラント事業本部営業統括部
2010年10月 技術本部品質保証統括部
2014年7月 JIMGA常務執行役員

趣味：散歩と10年前に加わったゴルフコースでのランニング。読書は薦められるままに読みます。

抱負：総務、企画、広報、RFタグを担当させていただきます。慣れない業務を担当しますが、会員の皆様のご協力を賜りながら、精一杯努めさせていただきます。

産業ガス教育用教材 e-ラーニングを活用しませんか!

JIMGAでは、産業ガス教育用教材として、e-ラーニングをウェブサイトアップしています。メニューは4種類で、JIMGA会員でなくても誰でも自由にアクセスできます。

各教材とも講義形式で、動画・事故事例・理解度テストを盛り込んだものになっており、これまでに多くの方々にご活用いただいております。

(H25.4~H26.7 累計アクセス数(4テーマ合計) = 13,611件)

<e-ラーニングのテーマ>

1. 【高圧ガスの安全基礎知識】 (約40分)
2. 【水素の安全な取扱い】 (約20分)
3. 【炭酸ガスの安全な取扱い】 (約20分)
4. 【酸素の安全な取扱い】 (約20分)

<e-ラーニングへのアクセス方法>



是非、ご活用下さい。(教育・研修WG)